

2021年度 全国保育士養成協議会
東北ブロックセミナー 青森大会

開催案内(案)

◇大会主題

保育現場における「保育の質の向上」と
保育士養成校の役割・課題

—多角度から探る協働の態様—

期 日 2021年11月27日(土)・28日(日)

会 場 八戸プラザホテル

住所：〒031-0081 青森県八戸市柏崎1丁目6-6 電話：0178-44-3121

主 催：全国保育士養成協議会 東北ブロック

大会事務局：八戸学院大学短期大学部

◇企画趣旨

一向に解消されない待機児童の問題や慢性的な保育者不足の問題と相まって、保育職の待遇改善が社会問題としてクローズアップされ始めています。同時に、保育現場における「保育の質の向上」や「保育職の専門性の向上」も、注目されるようになってきました。言うまでもなく、保育職の社会的評価の向上と専門性の向上とは一体の課題であり、そのためには待遇面の改善を裏付ける資格・業務の高度化・階層化を図るキャリアラダーの構築が必須と考えます。保育職の社会的評価・地位向上のためには、待遇・資格・業務を三点セットにして、改革を図らなければならないでしょう。

ただし、現実には多くの保育現場で、業務が複雑化かつ多様化・増大化し続ける一方で、保育者不足が深刻化し続けており、職員は手薄な体制のもとで煩雑な業務に日々追われているのが実情です。こうした状況下で、保育現場の自助努力のみに頼って、「保育の質の向上」や「保育職の専門性の向上」が実現するのでしょうか。

保育者養成については、保育職を志望する入学志願者数は今のところ大きな変動はないためか、18歳人口の減少傾向の中でも養成校の数自体は増え続けています。しかし、入学まではそれなりに保育職に夢や希望を抱いていても、入学後から学びを進めるにつれて、次第に保育職の資格を取ることだけが目的になり、保育職に就くことを選ばなくなる学生が増え始めてもいます。そうすると、たとえば実習においても身が入らないばかりか、ごく基本的なことすらもできないまま実習に臨み、多忙な保育現場に必要な以上の負担をかけ、ひいては保育者養成校の教育姿勢に不信感が抱かれることにまでなりかねません。ただし、これらのことは確かに保育者養成校側の教育に問題がある場合もあるでしょうが、保育職の過酷な労働実態や短期離職、低待遇等などのネガティブな側面が過度に浮き彫りにされ始めてきたことも一因でしょう。

保育者不足が解消されないからには、現場では専門的力量的なおろか基本的資質すら備えていない保育者を採用せざるを得なくなるでしょうし、そのことが組織全体のパフォーマンスを下げ、有能・有望な保育者に過度な負担がのしかかり憔悴しきって早期離職に繋がるということにもなりかねません。そのような悪循環に陥らないためには、保育現場と保育者養成校が連携を深め、むしろ好転させるような仕組みを協働して創り上げていく必要があるのではないのでしょうか。

先に、わが国の保育界に初めてキャリアパスの仕組みが導入され、保育職のキャリアアップ研修制度が創設されました。もちろん、これだけで保育職の待遇面の問題がすべて抜本的に改善されるとは言い難く、この制度がややもすると保育現場をさらに疲弊させ、裏目に出る可能性も懸念されています。それでは、このキャリアパスの仕組みを有効かつ発展的に進化させ、保育職の社会的評価を高められる高度専門職の養成・育成のために、保育者養成校が果たしうる役割はいかなるものなのでしょうか。

本シンポジウムは、保育者養成校と保育現場とが保育の現状を真摯に見つめながら、生産的な価値を見いだして実行すべき事柄を互いに探り取りかかる契機となるようにと、東北ブロックセミナーにおいて平成29年度から3年連続で同一テーマとしてきた「保育現場における『保育の質の向上』と保育士養成校の役割・課題」について、今回も引き続き総括的に議論します。トピックとして、大会初日に行われた各分科会の概況を各分科会司会者から報告していただき、それをふまえて実習・就職・研修の面のみならず、多角度から保育現場と養成校協働の態様を参加者全員で考究し合います。

これから何をすべきか、何ができるか、何から始めるか、いつまでにやらなくてはならないかなど、行為レベルの能動的コミットメントの第一歩を一緒に探っていきましょう。

プログラム

◇大会一日目 2021年11月27日(土)◇

13:00~13:15 開会式

13:15~13:30 大会企画説明

全国保育士養成協議会東北ブロック企画委員会 委員長 小坂 徹 氏

※ これまでの東北ブロックセミナーの開催経緯を含め、本大会企画の
趣意・枠組みおよび展開等について説明いたします。

13:40~14:40 基調講演

講 師：一般社団法人全国保育士養成協議会 会長 汐見 稔幸 氏

演 題：「保育士養成の動向と課題（仮題）」

14:40~15:00 会場移動・休憩

15:00~17:30 分科会

第1分科会 保育所実習における保育現場と保育士養成校の協働

司会者…聖和学園短期大学 教授 石森 真由子 氏

発題者Ⅰ…社会福祉法人みつは会 みどりのかぜエデュカーレ

理事長 田頭 初美 氏

発題者Ⅱ…八戸学院大学短期大学部 講師 鈴木 康弘 氏

第2分科会 施設実習における保育現場と保育士養成校の協働

司会者…福島学院大学 専任講師 細川 梢 氏

発題者Ⅰ…八戸市社会福祉事業団 うみねこ学園

園長 源 明 氏

発題者Ⅱ…青森中央短期大学 准教授 松浦 淳 氏

第3分科会 就職における保育現場と保育士養成校の協働

司会者…東北福祉大学 教授 和田 明人 氏

発題者Ⅰ…保育現場関係者

発題者Ⅱ…青森明の星短期大学 准教授 高橋 多恵子 氏

第4分科会 研修における保育現場と保育士養成校の協働

司会者…仙台白百合女子大学 教授 三浦 主博 氏

発題者Ⅰ…社会福祉法人恵友会 すぎのこ保育園

園長 伊藤 健 氏

発題者Ⅱ…八戸学院大学短期大学部 准教授 差波 直樹 氏

17:30~17:50 移動・休憩

17:50~18:10 2021年度全国保育士養成協議会東北ブロック第2回総会

18:30~ : 情報交換会（於；八戸プラザホテル「**〇〇〇〇**」）

〒031-0081 青森県八戸市柏崎1丁目6-6 電話 0178-44-3121

◇大会二日目 2021年11月28日（日）◇

9:00~12:00 分科会報告・グループ討議

テーマ 保育現場における「保育の質の向上」と保育士養成校の役割・課題
-多角度から探る協働の態様-

司会進行・・・郡山健康科学専門学校	学科長	小坂	徹	氏
発題者Ⅰ・・・聖和学園短期大学	教授	石森	真由子	氏
発題者Ⅱ・・・福島学院大学	専任講師	細川	梢	氏
発題者Ⅲ・・・東北福祉大学	教授	和田	明人	氏
発題者Ⅳ・・・仙台白百合女子大学	教授	三浦	主博	氏
グループ討議進行・・・聖和学園短期大学	准教授	上村	裕樹	氏

12:00~12:15 閉会式

セミナー参加に関して

☆参加費

○セミナー参加費	保育士養成校教職員	お一人	8,000円
	保育現場関係者等	お一人	1,000円

◎情報交換会参加費	お一人	6,000円
-----------	-----	--------

※ご宿泊等は、各自にてのお手配をお願いいたします

※参加お申込については、別添の「参加お申込について」をご参照ください

第1分科会 保育実習における保育現場と保育士養成校の協働

司会者…聖和学園短期大学 教授 石森 真由子 氏

発題者Ⅰ…社会福祉法人みつは会 みどりのかぜエデュケーラー
理事長 田頭 初美 氏

発題者Ⅱ…八戸学院大学短期大学部 講師 鈴木 康弘 氏

◇趣旨

保育所実習は、保育士養成教育において、養成校と保育所をつなぐ基幹的な科目といえます。保育士養成教育が、将来保育所で勤務する保育士を育てることを目的とする点をふまえれば、この実習は学生が養成校に在学中に実際の保育現場において保育士に必要とされる職務内容等を学ぶことのできるきわめて貴重な機会でもあります。このような重要な意味合いを持つ保育所実習であるため、その実施にあたっては本来保育所と養成校の間で緊密な連携・協力が求められるにもかかわらず、これまで十分に行われてきたとは言えないのが現実ではないでしょうか。すなわち、養成校は保育所実習を保育士養成のための一つの科目としてとらえつつも、実習の具体的な内容や指導のあり方については、保育所あるいは保育現場の保育士に一任してきたというのが実状ではないでしょうか。これは、保育所実習について、養成校と保育所の間で協議を行っていく十分な機会や場がなかったことにも起因するでしょう。そして、何より養成校における保育実習指導のあり方もまた保育現場のニーズ等をふまえた形で実施されてきたかどうかという疑問もあります。

しかし、このような保育所実習のあり方は、待ったなしでその改善が求められていることもまた事実であります。現在の日本の保育を考えた場合、保育所待機児童問題を解消するために保育所の新設が急ピッチで進められています。あるいは慢性的な保育士不足などの問題も抱えています。保育をめぐるこうした状況の中で、今まで以上に即戦力となる保育士養成が求められているとも言えましょう。そのため、養成教育の段階からできるだけ保育士として即戦力となることができるような力を育てることが必要となってきますが、その中心的な役割を担うのが保育所実習です。

保育所と養成校の協働という視点に立ち、保育所と養成校が共に手を取り合って、将来の保育士を育てていく保育所実習とはいかなる形で実現していくことができるのでしょうか。そのためには、養成校側の保育所実習を中心とした養成教育に対する認識と保育所側の保育所実習に対する認識を共有することから始めていかななくてはなりません。シンポジウムの趣旨にもあるように実習・就職・研修の一体的な改革という視点を踏まえ、保育所と養成校の協働の具体的な実現と可能性を、養成教育における保育所実習へのニーズと保育所における保育所実習への期待とをマッチングさせるなかで探っていきたいと考えます。

第2分科会 施設実習における保育現場と保育士養成校の協働

司会者…福島学院大学 専任講師 細川 梢 氏

発題者Ⅰ…八戸市社会福祉事業団 うみねこ学園

園長 源 明 氏

発題者Ⅱ…青森中央短期大学 准教授 松浦 淳 氏

◇趣旨

施設実習は実施する施設の種別が多様で、乳児期から高齢期まで利用者の年齢層も幅広く、入所理由も様々なものがあります。本分科会では施設職員と養成校の教員とが本音で意見を述べる機会として、それぞれの役割や課題をふまえて、協働のあり方を議論します。今回のセミナーの大会主題にもある「実習」「就職」「研修」に分けて探っていきます。

「実習」について、養成校は学生に対して授業や実習指導を通し、施設の機能や役割、利用者の状況について種別ごとに理解させます。また、実習開始までの事前学習の到達度を確認しながら指導を行っていますが、種別によっては保育の知識や技術ばかりでなく、療育、自立支援といった視点を含んだ援助の理解も必要となります。実習中のルールやマナーの遵守を伝えることも、養成校では重要なものになります。

施設実習は10日間という短期間の実践ですが、学生はそれまでの価値観を揺さぶられるような様々な経験を通して、自身の保育観や福祉観を育む機会となります。施設実習ほど実習前と実習後とで学生自身の中に大きな変化をもたらす実習はありません。そこには子ども（利用者）からの学びとともに、施設職員からの助言、指導が大きく作用しているといえます。実習と実習指導のあり方について、さらに連携を深め、協働してできることを探っていきます。

次に「就職」としての児童福祉施設等について考えます。保育士資格を取得する学生の多くが保育所や幼稚園に就職することを希望します。施設に勤務する保育士についてはその専門性の理解のため、授業や実習があるとはいえ、決して多くの学生が選択する職業ではない現状があります。人材不足は施設等も同様であり、施設等で働く保育士の魅力をどのように伝えたらよいか、養成校と施設の連携のあり方を探っていきます。

最後に「研修」について考えます。児童福祉施設等で勤務する職員にはそれぞれの専門性があり、これまでも年間を通して様々な職員研修が実施されてきています。待遇の改善とともに「専門性」「援助の質」の向上等、社会的評価を押し上げることが早期離職の防止にもつながります。卒業しても学び続け、専門職として成長し続ける職員を支えるため、養成校と施設が協働して研修を行う仕組みを探っていきます。

第3分科会 就職における保育現場と保育士養成校の協働

司会者…東北福祉大学 教授 和田 明人 氏

発題者Ⅰ…保育現場関係者

発題者Ⅱ…青森明の星短期大学 准教授 高橋 多恵子 氏

◇趣旨

我が国では、待機児童対策としての保育施設の増設や保育者不足など、“保育の量”の問題への対応に追われ続けていますが、その一方では“保育の質”の問題が懸念され続けています。多くの保育現場では、業務が複雑化かつ多様化・増大化し続けるなかで保育者不足が深刻化し続けており、職員は手薄な体制のもとで煩雑な業務に日々追われています。

養成校が増え、養成課程の学生が増え、資格取得費用に公費助成が盛り込まれたり、保育士試験が年2回になるなど保育者の資格が取得し易くなって資格保有者が増えているにもかかわらず保育者が不足し続けている主因は、保育施設の増設と人材確保策が並行してこなかったことに加え、保育者離れの傾向が変わらないこと、すなわち資格を取っても保育者にならない、あるいは一旦保育者になっても早期に離職してしまい、そのまま保育界に復帰せずに資格だけ持ち続けている潜在保育者が多いということでしょう。

養成校では、せっかく夢や希望を抱いて保育者養成校で学び始めても、実習等で保育現場の現実挫折し、職業として保育者を選ばずに方向転換してしまう学生も多く現存します。

また、保育現場としては、保育者不足が解消されないからには、専門的力量やその素養はおろか社会人基礎力も備わっていないような人材でも採用せざるを得なくなる場合があるでしょう。そして、そのことが組織のパフォーマンスを下げ、有望な若い保育者にまで負担がかかり、憔悴しきって早期離職に繋がってしまう悪循環にもなりかねません。

保育者不足が深刻化し続ける中、求人側（現場）にとっては人材確保戦略が、求職側（学生）にとっては職場の見極め方が大きな課題でしょう。しかしながら、昨今では、保育の本質とはおよそ無関係の「お気楽さ」や「オモシロさ」などをウリにしつつ、時には軽薄な意識を煽り立てながら、なりふり構わず人材を確保しようとするなど、まさにあの手のこの手の勧誘や採用活動も横行しています。浅薄な動機に加え、その保育現場の実践・実態に関してほぼ無理解なまま職場を選べば、マッチングどころかミスマッチが起きやすく、早期に離職してしまうのは必至ではないでしょうか。

このような悪循環を断ち切るためには、保育現場と保育者養成校が連携を深め、保育の奥深さや難しさと一対である保育の価値や意義に焦点をあてた人材開発・教育のあり方を協働して検討し、養成と育成をシームレスに繋いでいける仕組みを創り上げていく必要があると考えます。

そこで、この分科会では、保育現場関係者より保育者採用の現状と養成校に対する見解等をご提示いただき、養成校からもキャリア教育や学生の就職活動の実際等を紹介しながら、保育者不足の問題に保育現場と養成校が一緒に向き合い、解決に向けた策や道筋などを検討していきたいと思っております。

各登壇者からの発題を踏まえ、それぞれの立場でなににどのように取り組むべきか、役割や課題等を確認し合いながら、協働の方向性と具体的方略を一緒に探り合ってみましょう。

第4分科会 研修における保育現場と保育士養成校の協働

司会者・・・仙台白百合女子大学 教授 三浦 主博 氏
発題者Ⅰ・・・社会福祉法人恵友会 すぎのこ保育園
園長 伊藤 健 氏
発題者Ⅱ・・・八戸学院大学短期大学部 准教授 差波 直樹 氏

◇趣旨

「保育の質の向上」を図っていく上で、保育者個人・保育組織レベルのいずれにおいても“学び”は不可欠なものであり、その機会の一つとして「研修」があります。

幼稚園・認定こども園では、教育基本法や教育公務員特例法に基づく法定研修（初任者研修・中堅教諭等資質向上）や10年毎の免許状更新講習がありますが、保育所では、「保育所保育指針」第7章（平成29年改訂では、第5章）「職員の資質向上」により研修が努力義務とされているといった違いがあるものの、いずれの保育現場においても保育の質、職員の資質向上のために多くの研修が行われています。さらに、保育士の待遇（給与）改善の方策と一体化した形で、キャリアパスの仕組みが導入され、保育士のキャリアアップ研修制度が創設されて受講修了者も出ており、これまで以上に多くの研修の開催と受講が求められていく流れも続くことでしょう。

しかしながら、保育現場の業務は年々煩雑化する一方であり、現実には園外研修（Off-JT）に参加することや、園内研修（OJT）の機会を設定することですら困難な状況も見受けられます。一方、養成校においては、従前から、2年～4年の養成期間だけでは、就職後に保育者として即戦力になるだけの十分な力を養成することが難しいことについて指摘されてきましたが、昨今の保育者不足、売り手市場が続く現状においては、力不足であっても容易に就職できるという状況が起こっています。さらに、夢や希望を抱いて入学し学んだものの、保育職につくことへの魅力よりハードルの高さや保育職の実態を見て過酷さを感じて諦めることや、逆に、保育の場についてよく理解しないまま就職してイメージと現実との大きな乖離を感じることで、養成校を卒業したばかりの初任者が、専門職としてのキャリアを積み上げる前に辞めてしまうという保育者の早期離職も保育現場及び養成校の大きな問題になっています。これらの問題は、同時に、保育の質をどう保障し向上させていくかという問題に結びつくのではないのでしょうか。

就職後は職場や職能団体が育成するといった立場を強く持っている専門職（例えば、看護師や社会福祉士等）もありますが、保育職の場合は、養成校から保育現場への移行期（のりしろ期）は、双方からの支援が必要であり、養成段階から、特に、初任者の時期にかけての切れ目ない連携が必要であると考えられます。

このように、保育現場では研修ニーズが高まっている中、各保育士養成校・教職員・関連団体は、問題解決に向けてどのようにコミットしていくことができるのでしょうか。本分科会では、養成校の立場から試案を提示し、議論に付したいと思えます。東北ブロックセミナーにおいて3回目となる今回の分科会では、養成段階からの保育所との連携、及び保育所にて一つのテーマによる継続的な研修を行っている保育所と養成校教員から、具体例と成果のご紹介とご提言をいただき、参加者とともに、保育の質の保障・向上につなげていくための協働的な研修のあり方、養成校の関与について模索します。

これまで連携の重要性や必要性が言われながら、養成校としては必ずしも充分に関与することができていなかった「研修」について、保育現場や養成校としての役割や課題を確認し、相互理解を深めながら、協働の方向性と具体的方略を探り合っていきたいと考えています。

分科会報告・グループ討議

テーマ 保育現場における「保育の質の向上」と保育士養成校の役割・課題 —多角度から探る協働の態様—

司会進行・・・郡山健康科学専門学校	学科長	小坂	徹	氏
発題者Ⅰ・・・聖和学園短期大学	教授	石森	真由子	氏
発題者Ⅱ・・・福島学院大学	専任講師	細川	梢	氏
発題者Ⅲ・・・東北福祉大学	教授	和田	明人	氏
発題者Ⅳ・・・仙台白百合女子大学	教授	三浦	主博	氏
グループ討議進行・・・聖和学園短期大学	准教授	上村	裕樹	氏

◇グループ討議の枠組みと進行方法

全国保育士養成協議会東北ブロックでは、保育者養成校と保育現場がそれぞれの立場や役割を超えて、より質の高い保育が行われるために必要なことは何かということに対して真摯に向き合い、目の前に山積する課題に対して協働して実行するための契機となることを目指し、本ブロックセミナーの企画・運営を進めて参りました。そのため、本ブロックセミナーにおいて、平成29年度から連続して同一のテーマ「保育現場における『保育の質の向上』と保育士養成校の役割・課題」を設定して、シンポジウムや分科会、グループ討議等により、協働的な探り合いを重ねてきております。

保育現場における「保育の質向上」は、保育に携わるすべての人が求め、目指している喫緊の課題であろうと思います。そして、「保育の質の向上」に取り組むために必要なことは、保育そのものを実践し、支える専門職である保育者の資質・能力の向上であろうとも考えます。

保育者は、実践に身を置き、自らの課題と向き合い、試行錯誤を繰り返し、学びの必要性を理解することで、自ら主体的に学び、自己研鑽に励むことで、より質の高い保育を提供する専門職として成長していきます。

養成段階を経て、保育の現場へと務める保育者に対して、我々保育者養成校と保育現場が手を取り合い出来ることはいかなることか、高度専門職としての保育者の養成・育成のために取り組まなくてはならないことはなにか、これまでを振り返りながら、新たな関係の構築に向けて一緒にこれから私達が歩むべき協働のみちを探りましょう。

2021年度の青森大会では、これまでも取り組んできた保育者養成校と保育現場による対話的な学び合い（グループ討議）を行い、保育現場における「保育の質の向上」と、それに対して協働的に取り組む保育士養成校の役割と課題について、実習や就職、研修といったそれぞれの側面を含めて、複合的に多面かつ多様な保育士養成校と保育現場の協働の在り方について、考究し合っていきます。そのため、グループ討議では第一部から第三部に分けて実施いたします。

第一部では、分科会の内容について、各分科会司会者である発題者より報告を頂き、各分科会における意見交換等の内容について、全体での共有を図ります。

第二部では、保育現場の先生と保育士養成校教員の小グループを構成し、グループ討議を行います。そして、その中で「保育の質の向上」に向けた保育現場と保育士養成校での協働をテーマとし、その具体的内容（何をすべきか、何ができるか、何から始めるか、いつまでにやる必要があるかなど）について、ご検討いただきます。

第三部では、第二部のグループ報告において話し合われた内容について報告し合い、全体での共有を図って参ります。

協働に向けた取り組みは少しずつですが各地で生起し始めています。本セミナーにより、保育現場と保育士養成校が互いに手を取り合い、東北の「保育の質の向上」を図るための変革を迎える契機となるような協働の第一歩を、ここ青森からも踏み出していけるようになることを願っております。

以上